

救急・災害看護研究センター 活動報告書

2017-2019 年度

救急・災害看護研究センター 活動報告書

2017-2019 年度

救急・災害看護研究センターは、
救急・災害看護に関する研究を行い、
安全安心な地域社会の発展に寄与するため、
敦賀市立看護大学に設置されています。

はじめに



敦賀市立看護大学は開学4年目の春、2017年（平成29年4月1日）に「救急・災害看護研究センター」を設置いたしました。災害看護学では迅速かつ的確に対応できる能力を有した看護師を育成し、災害や事故発生時に人命や生活を守り、健康への被害を最小限にするための支援を行うことを目指しております。また、救急看護においても生命の危機を回避し、人命を守ると同時に社会生活への復帰まで高度な知識と技術を用いてケアに当たれる人材を育成します。救急と災害看護学を発展的に学ぶ教育の機会や、よりの確で質の高い看護ケアを提供するためには、その基盤となる災害や救急看護の研究に取り組み、その成果を公開していくと共に、成果を用いて救急・災害時に地域住民の安全安心のために貢献していきたいと考えております。

2017年以降、九州北部豪雨（2017年7月）をはじめ大阪北部地震（2018年9月）や北海道胆振東部地震（2018年9月）、西日本豪雨（2018年7月）、猛暑（2018年夏）、福井豪雪（2018年2月）、2019年には台風19号、新型コロナウイルス感染症の発生など、災害が頻発しています。日本は、外国に比べて台風、大雨、大雪、洪水、土砂災害、地震、津波、火山噴火の自然災害が発生しやすく、日本各地どこでも災害が発生する可能性があります。さらに、本学の立地する嶺南は、原子力発電所立地地域であり、原子力災害への備えも欠かせません。

「救急・災害看護研究センター」の主な活動を紹介します。本学の学生数の約7割はAHA BLS Hearth Care Provider Course（American Heart Association Basic Life Supportの公式コース）による資格を取得します。こうした資格をもった学生は、敦賀消防団機能別班（学生団員）として、地域で開催される救命講習や防災訓練に参画し、地元の消防機関と連携して、救命に関する知識・技術の提供やその普及活動を行っています。救命講習の場は、心肺蘇生法などを通して地域の方々との交流の場となっております。こうした学生と地域住民との交流は、有事の際に地域住民の命と安全を守ることに繋がっていくと考えております。

本報告書は、センター開設から3年間の活動をまとめたものです。今後のセンターの発展のため、ご意見をいただけましたら幸いです。今後ともご支援とご協力をお願い申し上げます。

救急・災害看護研究センター長
山崎 加代子

 目次 

はじめに

1. 救急・災害看護研究センターの役割	1
2. 研究	2
3. 教育および地域貢献	3
1) 災害に関する看護実践活動や有事に備える活動	3
2) 敦賀消防団機能別班（学生団員）活動	3
3) 既卒生および医療従事者対象の AHA-BLS Course 開催	6
4) 原子力施設視察研修	7
5) 研修会や広報活動等	8
6) シミュレーション・ラボの活用促進と管理	11
4. 次年度に向けた課題と展望	11
<資料>	12
(資料 1) マスメディア・ホームページ	
(資料 2) 総務大臣感謝状の授与式	
(資料 3) 学部学生の AHA BLS Course 資格取得状況	
(資料 4) 敦賀消防団機能別班（学生団員）の救急指導法講習参加人数	
(資料 5) 既卒生対象 AHA BLS Course 資格取得状況	
(資料 6) センター運営会議のメンバー構成	

1. 救急・災害看護研究センターの役割

【設置趣旨】

東日本大震災を契機として、救急・災害時の看護への関心と教育研究の重要性が高まってまいりました。敦賀市は原子力発電所立地地域であり、救急看護や災害看護の領域で活躍できる優れた看護師を育成することにより、地域住民の安全安心を確保することが必要です。

原子力発電所の事故や地震・津波などによる災害発生時には、いかに迅速に対応できるかが住民の命を左右する重要な鍵となります。そのためには、災害時に迅速に対応できる人材の育成と関係機関との連携体制が重要な課題となります。

救急・災害に迅速・的確に対応できる能力の高い専門的な看護師を育成し、災害や事故の発生時に人命を守り、健康への被害を最小限にするための支援を行うと同時に、災害時の新たな看護ケアの開発を目指した研究を行い、地域社会に貢献していくために、「救急・災害看護研究センター」を設置いたしました。

【役割】

平常時は、救急看護および災害看護に関係する教育・研究を行いながら、それらから学び得た知識や技術を活かし、応急手当の普及啓発活動、災害訓練等で地域に貢献します。

災害発生時には、緊急支援の補助を担います。また、本学が災害時の『緊急避難場所』として指定されていることから、関係機関や団体（病院および市等）との連携のもとに活動をしていくものです。

【業務内容】

- (1) 救急看護及び災害看護に関する研究に関する業務
 - ・健康問題等に関する研究
 - ・地域医療保健福祉施設等が行う研究の支援
- (2) 救急看護及び災害看護に関する教育に関する業務
 - ・学生に対する救急看護及び災害看護に関する教育及び卒後教育
 - ・救急看護及び災害看護に関する教育シミュレーション・ラボ等の管理
 - ・地域住民に対する救急・災害の知識等の普及活動等
- (3) 災害発生時に必要とされる救急支援に関する業務
 - ・地域等からの要請に応じた救急支援活動
 - ・学生の災害ボランティア活動支援等
- (4) その他（救急・災害看護に関すること）

2. 研究

救急・災害看護研究センターは、救急看護および災害看護に関係する研究を行い、結果を公開していきます。その一方、それらから学び得た知識や技術を活かし地域に貢献できるよう取り組んでおります。

センター運営会議のメンバーは、嶺南地域の医療施設に所属する看護職者の研究支援を行っています。このような活動から研究結果を現場に活かしていくことで地域との還元サイクルを構築しています。具体的には、2017年度は、手術室における震災時の危機管理に関すること、2019年度は周手術期看護に関することなど、現場で看護師が抱く研究疑問をもとに研究を支援いたしました。研究に取り組んだ看護師らは、所属施設の院内発表等で結果を公表しています。

2017～2018年度は「原子力災害に強い放射線看護人材育成プログラム(福井モデル)の構築」プロジェクトにメンバーが参画しました。福井県の医療機関と訪問看護ステーションにアンケート調査を実施し、在宅看護における放射線看護教育の必要性や課題を明らかにしました。(県内大学連携研究推進事業 201-2018年度事業報告『原子力原子力災害に強い放射線看護人材育成プログラム(福井モデル)の構築』,2019年3月)

2019年度は、嶺南地域に関する災害・救急看護における先行研究や報告書を検索し確認しました。嶺南地域は高齢過疎化、人口減少などが進んでおり、災害時に地域住民が自らの安全な生活を守るための支援方法を構築していくことが必要です。また、在宅で暮らす高齢者や在宅医療や訪問を必要とする住民への災害への備えを視野に入れた具体的な課題を抽出していく必要があることなどを検討しております。

年度	内容	備考
2017	敦賀医療センター手術室『手術室における震災時の危機管理に関する研究』の研究指導依頼1件。	
	COC関連。『原子力災害対応に強い放射線看護人材育成プログラム(福井モデル)の構築』プロジェクトへの参加。	
2018	『原子力災害対応に強い放射線看護人材育成プログラム(福井モデル)の構築』プロジェクトについて担当。	2017～2018年度
2019	敦賀医療センター『周手術期看護関係の研究』の研究指導依頼1件。	
	嶺南地域に関する救急・災害看護における先行研究や報告書を検索し次年度に向けて準備。	

3. 教育および地域貢献

センターは、救急看護および災害看護に関係する教育を行いながら、地域に貢献していけるように取り組んでいます。

学生並びに地域の看護職者の知識・技術の向上と維持、地域における心肺蘇生法など応急手当、防災知識普及などに努めています。

1) 災害に関する看護実践活動や有事に備える活動

2017年8月8日（金）敦賀市では、笙の川が警戒水位を超え、避難指示が出されました。その時、避難所が設置されたプラザ萬象に、教員1名（河合講師）を派遣しました。大きな混乱や被害はありませんでしたが、暑い時期であり熱中症等を防ぐために環境調整および健康管理を行いました。このような経験を通して、有事に役立つ有効な準備等を確認することができました。

災害発生時における学生ボランティアにかかる要領および災害ボランティアを志す学生向けの「災害における学生ボランティアガイドブック（2020年4月）」を作成しました。

2) 敦賀消防団機能別班（学生団員）活動

AHA BLS Hearth Care Provider Course（American Heart Association Basic Life Supportの公式コース、以下AHA-BLS Courseと略す）による資格は、救急看護学を履修する学生が3年次に取得します。その資格を取得した学生たちのうち15名が、学生の意思で敦賀消防団機能別班学生団員（以下、学生団員）に登録しております。2017年から3年間で延べ51名の学生が団員として活動いたしました。

学生団員は、地域で開催される救命講習や防災訓練に2017年度は7件、2018年度は11件、2019年度は11件に参加しています。このように、地域の消防機関と連携して地域に出向き、心肺蘇生法などの救急応急手当や防災に関する普及活動を行っています。

心肺蘇生法の指導や防災普及活動を行った学生は、「心肺蘇生についての自信が持てた」、「地域住民とのコミュニケーションを通して、安全安心な暮らしについて考えることができた」などの学習成果が得られています。さらに、学外において交通事故の現場や窒息した小児の応急手当にそのスキルを活かして対応できたという成果も挙げられました。2018年12月には、敦賀消防組合と本学学生団員の活動が評価され、平成30年度総務大臣感謝状が授与されました。

2018年11月に、敦賀市消防訓練（松陵中学校を会場とする）に、災害活動実習で学ぶ学生と学生団員が参加し、応急手当の普及活動を行いました。また、学部学生が参画し、災害下で物資が乏しい場合の清潔ケアの工夫や簡易おむつ等を市民に紹介しました。学生から、「住民が興味をもち、質問をしてくれることで、やりがいを感じた」「災害の備えを日頃から一緒に考えておくことが大事だと気づいた」などの感想が聞かれています。（写真：巻末資料）

地域の消防機関と連携した活動は、学生と地域の方々にとって教育の場の提供だけではなく、有事の際には地域住民の命と安全を守ることに繋がっています。

敦賀消防団機能別班（学生団員）活動状況

年度	月日	活動	学生団員数
2017	6月24日	学生12名の消防団員機能別班の入団式が挙行された。	3年生5名 4年生10名 (計15名)
	8月1日	消防団員機能別班15名に、応急手当指導員認定証が交付された。	
	9月2日	櫛川町区民に対して、救急法講習会に団員1名が参加。	
	9月12日	気比高校生に対して、救急法講習会に団員6名、教員1名が参加。	
	9月19日	気比高附属中学生対象の救急法講習会に団員8名、教員1名が参加。	
	9月22日	粟野南小学生対象の救急法に団員3名、教員1名参加。	
	9月26日	気比高校生対象の救急法に団員3名、教員1名が参加。	
	10月3日	国体関係者(市職員、ボランティア)対象の心肺蘇生法、AED取り扱いの指導に団員5名参加。	
2018	11月19日	国体関係者(市職員、ボランティア)対象の心肺蘇生法、AED取り扱いの指導に団員1名参加。	3年生4名 4年生10名 院生1名 (計15名)
	6月5日	敦賀気比高等学校の救命講習に、学生5名、教員2名が参加。	
	6月12日	敦賀気比高等学校の救命講習に、院生1名、教員1名が参加。	
	6月19日	敦賀気比高等学校の救命講習に、院生1名、教員1名が参加。	
	6月20日	保育士対象の普通救命講習に、院生1名、教員1名が参加。	
	9月11日	敦賀気比高等学校の救命講習に、学生4名、教員1名が参加。	
	9月14日	東浦小中学校の救命講習に、学生2名が参加。	
	9月18日	敦賀気比中学校の救命講習に、学生4名、教員1名が参加。	
	10月7日	福井国体空手道大会が敦賀市総合運動公園で開催され、学生1名が救急救命士とともに救護に参加。	
	11月18日	松陵中学校で行われた敦賀市総合防災訓練に4年生の学生団員10名を含む、救急・災害看護学分野の学生15名と教員2名が参加。	
2019	1月15日	敦賀高校の救命講習に、学生2名が参加。	4年生8名 3年生4名 院生1名 助産専攻科2名 (計15名)
	6月4日	敦賀気比高等学校の救命講習に、7名、教員2名が参加。	
	6月11日	敦賀気比高等学校の救命講習に、1名、教員1名が参加。	
	6月18日	敦賀気比高等学校の救命講習に、4名、教員1名が参加。	
	7月19日	ルネッサ敦賀店従業員7名対象の普通救命講習に学生1名が参加。	
	7月21日	本学オープンキャンパスにおいて、4名、教員3名消防団の広報活動と応急手当の指導を高校生対象に実施。	
	8月31日	福井県原子力総合防災訓練に学生22名、教員1名が参加。	
	9月7日	消防団の街頭活動に3名が参加。	
	9月10日	敦賀気比高等学校の救命講習に、8名、教員1名が参加。	
	9月17日	敦賀気比高等学校・附属中学校の救命講習に、2名、教員1名が参加。	
	9月17日	栗野小学校の救命講習に、6名が参加。	
	11月3日	本学、健康講座の心肺蘇生法の指導に、6名が参加。	
	2月3日	敦賀気比高等学校の救命講習に、1名が参加。	

<2018/11/18 敦賀市防災訓練の様子>



敦賀市消防訓練（会場：松陵中学校）に敦賀消防団機能別班（学生団員）が参加し、応急手当の普及活動を行った。また、学部学生が参画し、災害下で物資が乏しい場合の清潔ケアの工夫や簡易おむつ等を市民に紹介した。

学生から、「住民が興味をもち、質問をしてくれることで、やりがいを感じた」「災害の備えを日頃から一緒に考えておくことが大事だと気づいた」などの感想が聞かれた。



<2019/6/4 敦賀消防団機能別班（学生団員）活動 気比高校>



敦賀消防団機能別班（学生団員）活動では、気比高校で救命講習に参画し、心肺蘇生法の普及活動を行った。

高校生は、年齢が近い先輩から指導されることで、リラックスして講習を受けることができていた。学生の感想は、「生徒さんが、しっかりと取り組んでくれてうれしかった」「自分の手技も、指導をすること



で再度確認し自信が持てるようになる」など、学生自身も満足度が高いことが伺われた。

3) 既卒生および医療従事者対象の AHA-BLS Course 開催

AHA BLS 資格は、有効期限 2 年間である。2017 年から、既卒者を含め、地域の医療従事者を対象に、AHA-BLS Course を開催し、延べ 25 名が資格を更新しています。コースは一般社団法人愛岐救急医療研究会と教員 1 名（河合講師）が協働し実施しています。（写真：巻末資料）

既卒生および医療従事者対象の AHA-BLS Course 開催

年度	月日	受講者	備考
2018	7月16日	既卒生 16 名、実習病院先看護師 1 名が受講。	指導：教員 1 名参加
2019	11月30日	既卒生 8 名が受講。	指導：教員 1 名参加

<2018/7/16 既卒生を対象とした AHA BLS Course>

既卒生や病院看護師が AHA BLS Course に参加した。BLS の資格取得はもとより、卒業後に、集まる機会となり、話が盛り上がっていた。



4) 原子力施設視察研修

学生が、放射線や原子力防災について知見を広げるために、視察研修（敦賀市危機管理対策課の企画）をセンターがサポートしています。希望する学生を募り、教員 1 名が同伴しています。（写真：巻末資料）

年度	月日	行先	参加者
2017	9月25・26日	放射線医学総合研究所、原子力科学研究所等	3年生36名、教員1名
2018	9月25・26日	放射線医学総合研究所、原子力科学研究所等	3年生35名、教員1名
2019	9月24・25日	放射線医学総合研究所および大洗研究所等	3年生35名、教員1名

<2018/9/25-26 原子力施設視察研修>



<2019/9/25-26 原子力施設視察研修>



放射線医学研究所および大洗研究所の視察に、希望者 35 名が参加した。

学生から、「初めて目にすることで安全に管理されているなど実感できた」「知識が大事だと思う」「楽しかった」など感想が聞かれた。

5) 研修会や広報活動等

地域住民や看護職者を対象とした救急・災害の知識及び技術の普及活動や活動支援のための講演や研修会を行いました。

研修会や広報活動

年度	日時/場所	内容	備考
2017	7月22日 /福井県看護協会 8月5日 /敦賀市立看護大学	県内看護系医療従事者を対象、フィジカルアセスメントセミナー『五感を使った観察の仕方』、教員1名担当	福井県看護協会救急看護委員会主催
2018	10月28日 /敦賀市立看護大学	健康講座：市民向け CPR 体験、 学生4名と教員1名担当	地域・在宅ケア研究センターからの依頼
	原子力の科学館 あつとほうむ	救急・災害に関する体験コーナー（異物除去法と CPR の体験）を設置	『原子力の科学館あつとほうむ』イベント
	10月6日	学生2名、教員1名が参加	
	11月3日 11月4日	学生4名、教員3名が参加 //	
2019	6月25日 /あいあいプラザ	一般市民対象「応急手当」講演、教員2名担当	敦賀市管工事協同組合安全大会
	9月20日 /敦賀市立看護大学	「放射線看護研修会」学生および看護職者対象、教員4名が協力	COC+事業の研修会

<2018/11/3-4 「あつとほうむ」で開催されたイベントへ参画している学生の様子>



「原子力の科学館あつとほうむ」のイベントに、救急や災害に関する体験コーナー（異物除去や心肺蘇生法）を設けた。学生は、こどもたちや保護者に、楽しく経験し学んでもらえるように工夫しながら、応急手当等の普及活動をした。学生からは、「こどもたちが理解できるような言葉や伝え方が難しく、知識の再確認にもなった」という感想があった。

<放射線看護研修会『正しい放射線の理解』の紹介>

2019年9月20日に敦賀市立看護大学で放射線看護研修会が開催された。
福井大学とともに本学救急・災害看護研究センターも企画・運営に協力しました。

i) 参加者

受講者：46名
(看護学生 36名、一般看護師 9名
[内大学院生 4名])

講師陣：8名、福井大学工学部学生 5名

スタッフ：敦賀市立看護大学教員 4名、
事務 1名

医療現場と放射線災害に役立つ
身のまわりの放射線を正しく理解してますか？
リスクコミュニケーションを一緒に考えてみよう！

放射線の正しい理解

対象：看護学生・院生、看護職20名
日時：9月20日 Friday
pm1:30-5:30
場所：敦賀市立看護大学
参加費 無料

pm 1:30~3:40
●身のまわりの放射線を正しく理解しよう！ ●
福井大学附属医療工学部 安田伸宏 松尾輝一郎 他
pm 3:50~5:30
●事故から考えてみよう！ ● 福井大学災害看護CNS企画科
原子力災害時のリスクコミュニケーション
災害看護専門看護師 朝田 和枝 福井赤十字病院
窪田 富美 公立丹海病院
高井 幸久 福井大学臨床看護学講座
西川 真悠 武生看護専門学校専任教員
長谷川 美智子 JCHO福井勝山総合病院
花房 八穂他 福井県立病院
災害看護専門看護師教育課程終了生 井上 ひろみ 市立敦賀病院

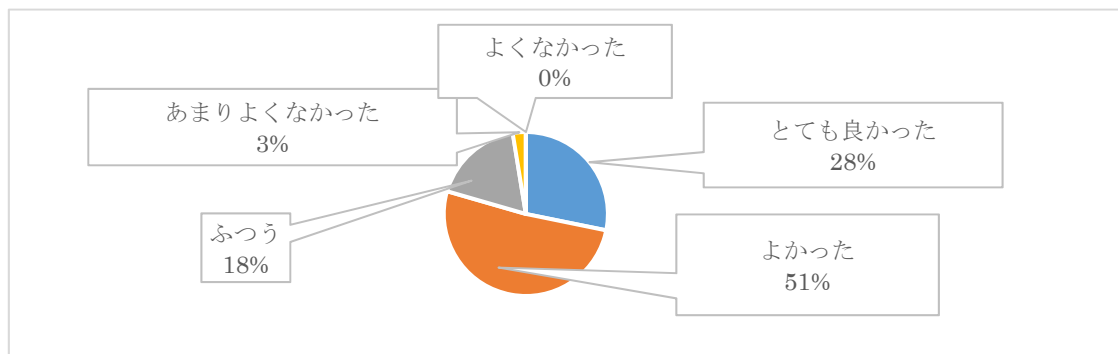
申込方法・問合せ先
●締切 7月31日(水)
●学生は、各大学の窓口まで
福井+教育(無料)のみ
●看護職は、敦賀市立看護大学
事務局まで、下記のメールにて、
ご連絡ください。
Email:
soumu@tsuruga-nu.ac.jp
件名：研修9/20申込
内容：ご所属とお名前
をお知らせください。

福井大学地(知)の拠点 COO・特色人材育成部企画課福祉分野

ii) アンケート結果

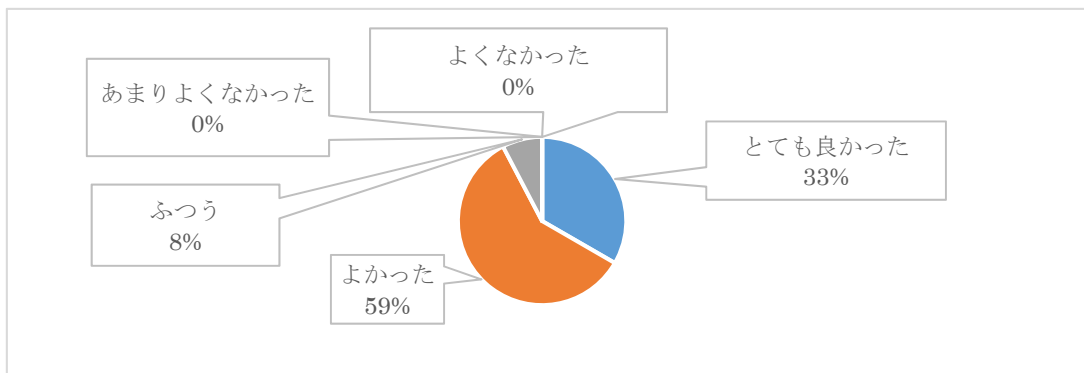
回収率 85.8% (39/46名中) 看護師実務経験者 3/36名中

①身のまわりの放射線を正しく理解しよう (n=39)





②事例から考えてみよう！原子力災害時のリスクコミュニケーション (n=39)



[感想や学び]

- 今まで知らなかった放射線についての知識を得る良い機会になった。
- 放射線の体験などもできてよかった。
- グループワークで意見を出しあって、リスクコミュニケーションの重要性を理解できた。
- いつか起こりうる可能性があるし、1度行ったことがあるのと未経験では違うので、リスクコミュニケーションのHow toが知れてよかった。
- 他大学の人と交流ができ、自分とは違う視点からの考えがでてきて面白かった。等

6) シミュレーション・ラボの活用促進と管理

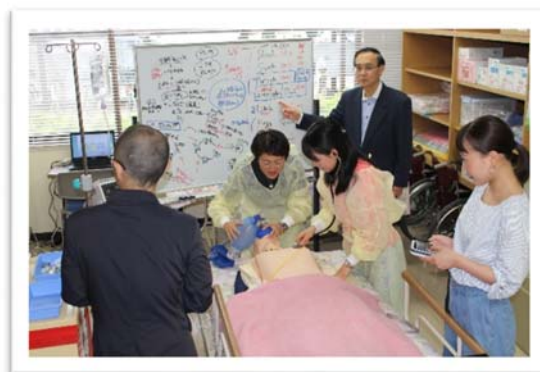
学外者にも救急・災害看護研究センターのシミュレーション機器の貸出しやシミュレーション・ラボの開放を行っています。

シミュレーション・ラボの利用状況および整備等

2017	センター室内の環境整備を実施。
2018	平成 30 年 9 月 1 日～3 月 31 日までの期間で、学生 2 名の利用 2 年生に対し「成人急性看護学演習」でシミュレーショントレーニングを 2 回実施。
2019	授業として 2・3・4 年生が利用した。 授業以外の利用は、前期 3 年生 3 名、4 年生 17 名の計 20 名、後期 3 年生 18 名、4 年生 3 名、院生 2 名の計 23 名。 シミュレーション・ラボの設置機材の整備とメンテナンスを実施。

<2018/5/23 救急・災害看護研究センターシミュレーションラボを活用した教育の様子>

シミュレーション・ラボでは、授業時間以外でも、学生が自主的にシミュレーション人形を用いて、観察や救急処置などを学習する姿が見られた。



4. 次年度に向けた課題と展望

当センターは救急看護および災害看護に関係する教育・研究を行いながら、それらから学び得た知識や技術を活かし地域に貢献することが役割です。

地元の消防機関と連携した敦賀消防団機能別班（学生団員）の活動は、3 年間で軌道にのり、学生は積極的に救命講習及び防災訓練等に参加し、救急応急手当や防災に関する普及活動に取り組んでいます。今後も継続し、学生が地域の方々と交流し、安全安心して地域で暮らし生活をするための活動を推進していきます。さらに、在学生と卒業生との交流の機会を設け、救急・災害看護において地域に貢献できることを模索していきます。

防災への関心を高め、将来、看護者として放射線防護文化普及の一助となる人材育成につながるように学生の教育に取り組めます。地域の方々とともに自然災害や原子力災害に備えるための訓練に参加し、有事の際に対応できるように、また、災害時に地域住民の方々が、自らの安全な生活を守るための支援方法を構築していけるように、地元という資源を活かした学生の教育と研究を両輪とした課題に取り組むたいと考えます。大学が地元の関係機関と連携するための課題についても探究してまいります。

【資料】

(資料 1) マスメディアやホームページ

年度	月日	内容
2018	2月4日	朝日新聞『この人に聞く』学生団員2名の活動が取り上げられ掲載された。
	12月3日	福井県安全環境部危機対策・防災課より消防団入団促進パンフレットへの県内消防団員の写真及びコメントの掲載依頼があった。 学生団員1名が掲載された。
2019		本学HPに救急・災害看護研究センターのバナー設置、活動情報を公開した。 http://tsuruga-nu.ac.jp/publics/index/242/

(資料 2) 総務大臣感謝状の授与式



2018年12月20日 敦賀消防団機能別班（学生団員）の活動が評価され、総務大臣感謝状が授与された。

（写真は、12月25日敦賀市役所で行われた市長報告会時に撮影。

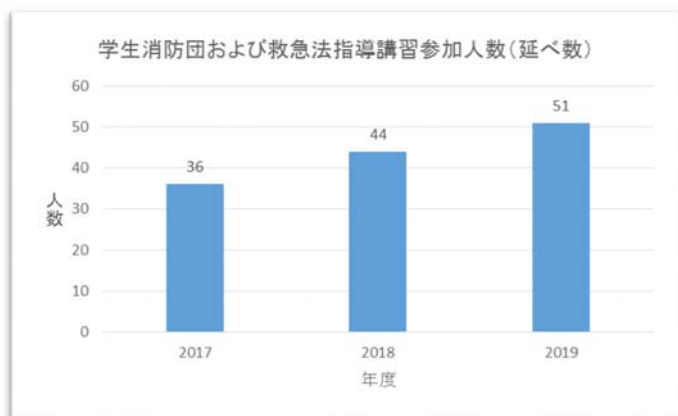
後ろ左から、敦賀消防団長 堀居秀夫氏、本学交野学長、敦賀美方消防組合消防長 岡正一氏、本学 河合講師、前2名は学生）

(資料 3) 学部学生の AHA BLS Course 資格取得状況



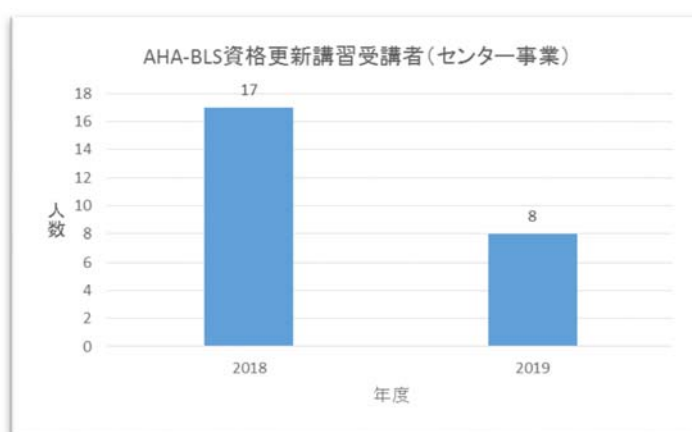
科目「救急看護学」で AHA BLS Course 資格を取得する。その後、学生の希望にそって敦賀消防団機能別班（学生団員）として、資格を活かし指導者として、救急指導法講習などに参加する。

(資料 4) 敦賀消防団機能別班 (学生団員) の救急指導法講習参加人数



救急指導法講習に敦賀消防団機能別班 (学生団員) が指導者として参加した人数を示す。

(資料 5) 既卒生対象 AHA BLS Course 資格取得状況



AHA BLS Course 資格は、有効期限 2 年間である。

(資料 6) 救急・災害看護研究センター運営会議のメンバー構成

[五十音順 ○センター長 ※事務局]		
2017 年度 (平成 29 年度)	2018 年度 (平成 30 年度)	2019 年度 (平成 31 年度/令和元年度)
池原 弘展	池原 弘展	池原 弘展
河合 正成	河合 正成	河合 正成
杉浦 良啓	杉浦 良啓	高原美樹子
高原美樹子	○高原美樹子	※榎本 洋樹
※榎本 洋樹	※榎本 洋樹	○山崎加代子
○茂庭 将彦		
横山 浩誉		

2017-2019 年度 救急・災害看護研究センター報告書

2020 年 3 月 31 日 発行

編集/発行 敦賀市立看護大学 救急・災害看護研究センター

〒914-0814 福井県敦賀市木崎78号2番地-1

TEL:0770-20-5500 FAX:0770-20-5548

Tsuruga Nursing University
